

平成28年3月期 第1四半期
決算概要

KANeKA

The Dreamology Company

— Make your dreams happen —

2015年8月10日(月)

株式会社 **力ネ力**

目 次

- 業績概要 P. 3
- セグメント別 売上高・営業利益 P. 4
- セグメント別 事業概況 P. 5
- 業績予想 P. 6
- トピックス P. 7

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績概要

- 売上高は、海外事業が拡大し、対前年2.5%の増収。
- 利益は、営業利益・経常利益・四半期純利益のいずれも大幅な増益。前年度3Q以降、着実に利益拡大が進む。
- 成長シナリオの実現に向けて順調なスタート。

(単位：億円)

	H26年度1Q	H27年度1Q	増減	
売上高	1,359	1,394	34	2.5%
営業利益	49	86	37	76.5%
経常利益	49	80	32	64.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	30	52	22	72.8%
1株当たり四半期純利益	8.85円	15.38円		

セグメント別 売上高・営業利益

- 売上高は4セグメントが増収。ライフサイエンス・合成繊維は、海外事業が好調に推移し2桁の伸び。
- 営業利益は全セグメントが増益。機能性樹脂・発泡樹脂製品・合成繊維が、主力製品を中心に好調な販売あるいは収益性の向上により大きく増益。食品・エレクトロニクスは事業採算が改善。

(単位：百万円)

<セグメント別>	売上高				営業利益			
	H26年度1Q	H27年度1Q	増減		H26年度1Q	H27年度1Q	増減	
化成品	28,494	26,995	△1,498	△5.3%	891	1,329	438	49.2%
機能性樹脂	24,121	23,683	△437	△1.8%	2,575	3,610	1,034	40.2%
発泡樹脂製品	15,861	16,578	717	4.5%	551	1,338	786	142.5%
食品	33,772	35,283	1,510	4.5%	90	365	274	302.2%
ライフサイエンス	12,553	14,586	2,032	16.2%	2,089	2,543	454	21.8%
エレクトロニクス	10,847	10,335	△512	△4.7%	5	141	135	—
合成繊維、その他	10,289	11,911	1,621	15.8%	2,471	4,025	1,553	62.9%
調整額	—	—	—	—	△3,799	△4,746	△947	—
計	135,941	139,374	3,433	2.5%	4,876	8,607	3,730	76.5%

セグメント別 事業概況

(単位：百万円)

		H26年度1Q	H27年度1Q	
化成品	売上高	28,494	26,995	<ul style="list-style-type: none"> 塩化ビニール樹脂は、海外向け販売が増加するも国内需要が低調に推移。 塩ビ系特殊樹脂は、海外市場を中心に好調に推移。特に塩素化塩ビは、本年3月に稼働した米国での生産能力増強設備が販売に寄与し、販売数量を大きく伸ばした。 か性ソーダは国内需要が低調に推移。
	営業利益	891	1,329	
機能性樹脂	売上高	24,121	23,683	<ul style="list-style-type: none"> モディファイヤーは、欧州を中心に建築需要の落ち込みを受け海外販売が伸び悩んだが、製品差別化力の向上とコストダウンへの取り組み強化、新製品の市場開発進展により利益は順調に拡大。 変成シリコンポリマーは、建築用途などで他素材からの置き換えが進み、海外市場を中心に販売が拡大。
	営業利益	2,575	3,610	
発泡樹脂製品	売上高	15,861	16,578	<ul style="list-style-type: none"> 発泡スチレン樹脂・成型品は、農水産分野に加え土木分野でも販売が順調に拡大。 押出発泡ポリスチレンボードは、消費税率引上げ後の住宅関連市場の回復遅れもあり、需要が低調に推移。 ビーズ法発泡ポリオレフィンは、海外市場での自動車分野を中心に販売数量が増加。
	営業利益	551	1,338	
食品	売上高	33,772	35,283	<ul style="list-style-type: none"> 食品は、国内需要の伸び悩みと低価格志向が継続する中で、食の多様化に対応すべく技術革新を進め、ニーズを先取りした新製品の販売に積極的に取り組んだ。 円安等を背景とした主要原料価格の高止まりに対し、販売価格の修正やコスト構造の改善を進め、事業採算の向上に取り組んでいる。
	営業利益	90	365	
ライフサイエンス	売上高	12,553	14,586	<ul style="list-style-type: none"> 医療機器は、血液浄化システム事業の一部製品の販売が伸び悩んだが、インターベンション事業は国内・海外向けの販売が堅調に推移。また消化器内治療領域など新領域での事業拡大に注力。 医薬中間体は、API（医薬品としての有効成分を有する原体）やバイオ医薬分野において販売が順調に拡大。 機能性食品素材は、サプリメント市場における還元型コエンザイムQ10のヘルスケア効果の認知が着実に進み、販売数量が増加。
	営業利益	2,089	2,543	
エレクトロニクス	売上高	10,847	10,335	<ul style="list-style-type: none"> 光学材料は、需要が堅調に推移し販売が拡大。 超耐熱ポリイミドフィルムと超高熱伝導グラファイトシートは、中国スマートフォン市場の需要低調などにより販売数量が伸び悩んだ。今後はスマートフォンメーカーの新モデル立ち上げにより需要が拡大する見込み。 太陽電池は消費税率引上げ後の住宅関連需要の回復が遅れている影響を受けたが、技術革新による世界最高レベルの変換効率をもつ新製品の市場開発や、生産体制見直しなどの事業構造改革を進め採算が改善。
	営業利益	5	141	
合成繊維、その他	売上高	10,289	11,911	<ul style="list-style-type: none"> 合成繊維は、アフリカ市場での頭髮分野を主体に当社の高品質・ブランド力による拡販を更に強化。フル生産フル販売が継続している。コストダウンへの取り組み、円安も収益の大幅拡大に寄与。 旺盛な需要に対応すべく、本年秋の稼働に向けたマレーシアの新工場建設を進めている。
	営業利益	2,471	4,025	
調整額	営業利益	△3,799	△4,746	
合計	売上高	135,941	139,374	
	営業利益	4,876	8,607	

業績予想

- 連結業績予想に変更はありません。
- 1Qは計画通り利益が拡大し、業績予想に対して順調な滑り出し。
- 引き続きR&D強化による新規事業の創出とグローバル化による事業拡大を加速させるとともに、既存事業においても新製品の上市やコストダウンによる市場環境に左右されない収益力の強化をはかり、事業構造の変革を進める。

(単位:億円)

	H27年3月期実績		H28年3月期見通し		前年比			
	2Q累計	通期	2Q累計	通期	2Q累計増減		通期増減	
売上高	2,734	5,522	2,800	6,000	66	2.4%	478	8.7%
営業利益	95	246	170	360	75	79.3%	114	46.1%
経常利益	96	248	155	330	59	61.6%	82	33.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	54	180	95	200	41	74.7%	20	10.9%

【H28年3月期 前提条件】 為替レート：120円/米ドル、135円/ユーロ 国産ナフサ価格：50,000円/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

培養脂肪幹細胞を用いる 乳房再建療法の臨床研究を開始

R & D

当社グループ会社である(株)バイオマスターが運営するセルポートクリニック横浜は、**培養脂肪幹細胞を用いる乳房再建療法の臨床研究**を本年9月より開始します。

この治療法は、自身の少量の脂肪から取り出し培養で増やした幹細胞を脂肪と混ぜる独自技術を用いて乳房を再建します。

従来の脂肪移植にくらべて、**取り出す脂肪量が少なく負担が小さいことに加え、自身の幹細胞と脂肪を用いるため、安全に元の乳房に近い状態へ再建が期待できます。**

- 乳がん手術により乳房を摘出した場合の乳房再建には様々な方法（インプラント法など）がありますが、安全面を含め満足度の高い再建が得られない場合があります。
- 本臨床研究により安全性と有効性が確認されれば、より患者への負担が少なく、より完全な乳房再建が可能となります。

* 本計画については、本年7月に特定認定再生医療等委員会に実施可能と判断され、厚生労働省に計画を提出し受理されています。



細胞の培養装置

ご参考：<http://www.kaneka.co.jp/service/news/150731>

トピックス

ヘテロ接合結晶シリコン太陽電池 世界最高水準の変換効率24.5%を達成

R & D

- ドイツの第三者機関（フラウンホーファー太陽エネルギーシステム研究所）にて、ヘテロ接合結晶シリコン太陽電池セル（6インチ角）で**変換効率24.5%達成**の認証を受けました。
- 単結晶と非晶質（アモルファス）のシリコンを組合せて接合面の欠陥を防ぎ、変換効率の低下を防止し、また当社独自の電極形成技術により太陽光の遮光面積を減らすことに成功しました。太陽電池事業における生産コスト低減にも寄与します。



ヘテロ接合太陽電池が
設置された住宅（イメージ）



ヘテロ接合太陽電池
（イメージ）

太陽電池セル・モジュールのさらなる高効率化実現に向け、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が実施するプロジェクトにも参画しています。

ご参考：<http://www.kaneka.co.jp/service/news/150729>

トピックス

いままでにないサクサクした食感を実現する パイ用シート油脂を開発

新製品

- 生地中で薄膜状に分散する パイ用シート油脂「チップシートNP」 をグループ会社の太陽油脂(株)が開発し、本年5月より販売を開始しました。
- パイ生地が簡単に作れるマーガリンで、有望市場であるお土産分野を中心に 3年後には5億円の売上を計画しています。



ミキサーかくはん後、
油脂が薄膜状に分散した様子

- 従来より、パイ生地は板状のマーガリンを生地の間に重ねながら伸展・折り重ねを繰り返す製法や、小片状のマーガリンを生地中に分散させる製法により作成され、製造に時間がかかっていました。
- 本製品を生地のもとになる小麦粉や卵と一緒にかき混ぜると油脂が容易に薄膜状に分散し、製造時間が短縮されると共に、焼成後のパイのボリューム感が安定的に高く、サクサク感が向上します。

ご参考：<http://www.kaneka.co.jp/service/news/150612>

KANUKA

The Dreamology Company

— Make your dreams happen —